

# 令和3年度地域活性化活動概要

【活動名】 名陵中学校「地域の異校種間連携の活性化（小中大連携）」

## 1 活動の概要と成果

### (1) 活動の概要

○異校種間連携の活性化による学習支援への取組

近隣の大学と連携した日々の授業支援・補充学習の充実により、児童生徒へ試験対策にとどまらない幅広い学習理解に向けた取組を行った。

### (2) 成果

#### ① 授業サポート

一斉授業での生徒への個別支援を行った。教師の指示が入りにくく、学習が滞っている生徒への声かけや、作業補助などを中心に関わってもらった。



理科の実験、技術のPCを使った作業や木工、家庭科の調理実習では学生が生徒の横でサポートを行うことで作業が円滑に進められた。

また、英語・数学も課題への取組の際に学生が支援を行うことで理解が進む生徒もあり、成果が認められた。

特別支援学級では、市の支援員とともに授業支援に入り、個々の進捗状況に合わせた学習サポートを行うことができた。

延べで以下の学生の参加数があった。

5月17日～31日（51名）	6月1日～30日（83名）
7月1日～9日（28名）	10月4日～29日（85名）、
11月1日～26日（54名）	12月2日～23日（35名）
（9月、1月はコロナ感染症拡大のため中止）	

#### ② トワイライト・ラーニング

補充学習を柱に2本立て（授業の復習及び発展的学習）で行った。教師と大学生とで指導やサポートを行った。

##### ○ 学習会

中学校の定期テスト期間中（放課後）にまとまった補習時間を設定した。授業の復習や試験対策を中心に実施した。回を重ねると参加生徒が固定されるという課題は残るが、指導者の数も十分に確保でき、マンツーマンの細かな支援体制ができた。



##### ○ 夕方 (you gotta) CHANCE

学びを深めたり、英検への挑戦など高い目標に向けて学びを進めたい生徒への補充学習支援を行った。

今回は、梅大生のグループが計11回の英検受験対策講座を企画した。シラバスの作成、小中学生の英語能力のレディネスを把握するための事前調査、11

回の講座運営、受験当日の会場運営をコミスクの地域ボランティアと一緒に携わった。



講座には小学5年生から中学3年生までの15名が参加し、本校で行った1次試験には小学2年生～中学3年生までの21名が受験をした。うち20名が合格し、3級以上は2次試験に臨む。

今回、コロナの影響で実施を見送ったが、学生たちは2次試験対策（リスニング、スピーキング）も企画をしてくれた。参加児童生徒が意欲的に臨み、学生たちも大いにやりがいを感じていた。



## （2）学校応援団活動

地域から学校応援団を募集し、環境整備や文化活動等で地域資源の適材活用を試みた。コロナ禍で当初の多様な活動計画はとん挫したが、環境整備では継続的に参加され、放置されていた校内の一角に校内園を整備していただいた。次年度技術で栽培の授業に活用する予定である。



## 2 活動の課題と今後の取組

### （1）課題

次年度からの名陵学園開校を見据え、小中大の連携を密にすることで現在本校の抱える学力格差の課題に取り組もうと考えた。今年度は4割の児童が近隣の中高一貫校や私立中学校へ進学した。新入生は習熟度に応じた個別支援を厚く継続することで学力の伸長を期待できる生徒も多い。授業時のサポートと

質の高い補充学習の両輪で個別支援の機会を確保した。学校評価アンケートや学力定着確認テストの結果を見ると一定の成果はあったと捉えている。

課題は以下の2点である。

- ・成果を保護者や児童生徒らにしっかりと周知することで参加者数を拡大していくこと。
- ・この度は助成事業でいただいた資金で参加者への謝金に充てられたが、次年度以降の運用費用をどのように捻出していくか。

### （2）今後の活動

今年度この事業への確実な手ごたえを感じている。ぜひとも継続していきたいが、上記課題決して保護者生徒への積極策、後援会資金等の運用で対応していきたい。

この度このような助成をいただき、初年度の取組として思い切った実践ができました。本当にありがとうございました。